電話 03(3356)7711(代)　FAX 03(3354)7271
http://www.tochuken.or.jp/

未来への扉を開く

担い手確保と生産性向上推進

一般社団法人　東京都中小建設業協会　会長　山口　巌

ご挨拶

明けましておめでとうございます。

東京都の小池知事は昨年11月、主要政策の方向性を発表いたしました。それによれば、「セーフシティ」「ダイバーシティ」「スマートシティ」の三つを実現し、新しい東京を創ろうというものです。中身を見れば我々建設業者がその主要な役割を担うものとなりそうです。2020年東京オリンピック、パラリンピックを迎えるに当り、安全で快適な東京を創ることには大賛成です。都中建も心新たな新年をスタートさせます。

担い手三法が改正されて4年、運用指針が示されて3年を迎えますが、この問題は受・発注者間の理解と協力がなければ前進いたしません。それぞれの団体が自ら努力をしながら関係する発注者と協議を進める必要があります。状況に応じ、適宜要望活動を行ってまいります。

10年後には建設業就業者が27％減少するという予測のもと建設雇用改善計画と生産性向上運動が進められております。人材確保につきましては、都中建も厚労省事業であります「建設労働者緊急育成支援事業」と建設業振興基金の「地域連携コンソーシアム」に参加し、工学院専門学校でも合同企業説明会を開催させていただき、努力を続けております。問題は生産性向上です。10年後までに20％の生産性向上という目標は十分に理解できます。都中建としても昨年生産性向上特別委員会を発足させ、議論を続けておりますが、都市部における中小規模工事の生産性向上は「言うは易く行うは難し」です。国土交通省も研究会を立ち上げ、好事例を収集し、中小、中堅企業に紹介されようとしております。同時に全国団体の成功事例なども情報交換できればと希望しております。

今年も課題多き1年になりますが、会員の皆様の協力と関係各位のご指導を得ながら未来への扉を開いてまいりたいと思います。

最後に本年が皆さまにとって幸多き1年になりますようお祈り申し上げます。

実効プラン道しるべに　東京に「希望の華」を

東京都知事　小池百合子

明けましておめでとうございます。

二〇一七年を、都民の皆様と共に「希望」に満ちた年としていきたい。新年の朝を迎え、そう決意を新たにしております。都民の皆様一人ひとりが抱く希望こそが、東京の明るい未来を切り拓く力となります。そのために、「都民ファースト」の都政を展開し、誰もが輝く「新しい東京」を実現することが、知事としての私の使命であります。

昨年八月の知事就任以来、都政の「見える化」を推し進めながら、様々な課題を掘り起こしてまいりました。例えば、東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会について、真のレガシーへの投資と税金の有効活用をいかに徹底し、都民の皆様のご理解を得て、成功へと導いていくのか。あるいは、五十年後、百年後の東京をどのように構想し、そこを目指して成長を続けるために、何を為すべきなのか。今の都民だけでなく、まだ見ぬ未来の都民への責任も果たすため、山積する課題を解決していかなければなりません。

そのための具体的な道筋として、先日、「二〇二〇年に向けた実行プラン」を発表いたしました。明るい未来への梃子となる東京二〇二〇大会までに集中的に取り組む政策や、将来の夢溢れる東京の姿を掲げております。毎日の暮らしをしっかりと支える安全・安心の確保。女性が益々活躍し、高齢者や障がい者の方々がいきいきと暮らせる社会の実現。世界の都市間競争を勝ち抜く国際金融・経済都市や、持続可能な環境先進都市への挑戦。プランを道しるべに、都民一人ひとりの希望に向かって、皆様の共感を追い風としながら、数々の政策をスピーディーに進めたいと思います。ぜひご一緒に、東京に「希望の華」を咲かせてまいりましょう。

新しい年が、皆様にとって幸多き輝かしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

「安全で快適な東京」に貢献

17年賀詞交歓会

東京都中小建設業協会は1月10日、東京・新宿区の維新號で17年賀詞交歓会を開催した。

冒頭、山口巌会長は「東京都では昨年小池百合子知事が誕生し、主要政策の方向性が示された。都中建としても安全で快適な東京づくりの一端を担っていきたい」と挨拶した。また、「担い手三法」の前進に向けた要望活動や建設労働者緊急育成支援事業、地域連携コンソーシアムに積極的に取り組むほか、生産性向上の研究、情報交換も進める考えを表明。この中で、4月には初めて新入社員研修を行う予定を明らかにした。

耐震化相談に協力

東京都が都議会都政ギャラリーで1月16日から18日にかけて開いた「2017冬耐震キャンペーン」耐震フォーラムの耐震化個別相談会で、都中建は非木造建築物耐震改修工事の相談に協力した。

【都中建耐震相談窓口】フリーダイヤル0800-919-7717（東京都都内・固定電話専用　土日祝除く9：30～17：00）。

丸藤小林土木と高木建設に都知事感謝状

昨年10月に開かれた「第66回東京都建設業者大会」で、長年にわたって業界の発展に尽力してきた優良建設業者表彰が行われ、都中建会員の丸藤小林土木（小林藤男代表取締役）と高木建設（高木義夫代表取締役）に邊見隆士東京都技監から都知事感謝状が贈呈された。

山は動いた

「工事施工の平準化を」と発注当局に何十年訴えてきたでしょうか。しかしながら発注当局にもそれなりの事情があってなかなか実現しませんでした。時は移り平成26年、公共工事の基本となる「品確法、入契法、建設業法」いわゆる担い手三法が改正され、同年基本方針が、翌27年運用指針が関係各省で申合せされることによって事態は動いてもきました。債務負担行為の積極的な活用や年度当初からの予算執行の徹底などにより、発注、施工期間等の平準化を図るというものです。

これらを受けて東京都も動きました。28年3月「工事発注の平準化に向けて」を発表しました。財務局から各局へ強力な要請があったと聞き及んでおります。内容は発注件数平準化の目標値を定めることと平成30年度を目途に集中期と端境期の比率を1・5倍程度にするというものです。各局の受けとめ方にもそれぞれ厳しい面もあったと思います。建設局では28年度上半期50％と発表されました。しかしこれで4月から6月の工事発注量が増えるという保証にはなりません。ともかく一歩前進と評価し、努力に敬意を表します。

いずれにしても山は動きはじめたのです。これからもこの推移を見守りながら更なる改良に向けて要望を続けてまいります。

我々建設業者としても工事履行の確保に更なる努力が求められます。